

第2章 足立区を取り巻く現状と今後の見通し

1 足立区の人口

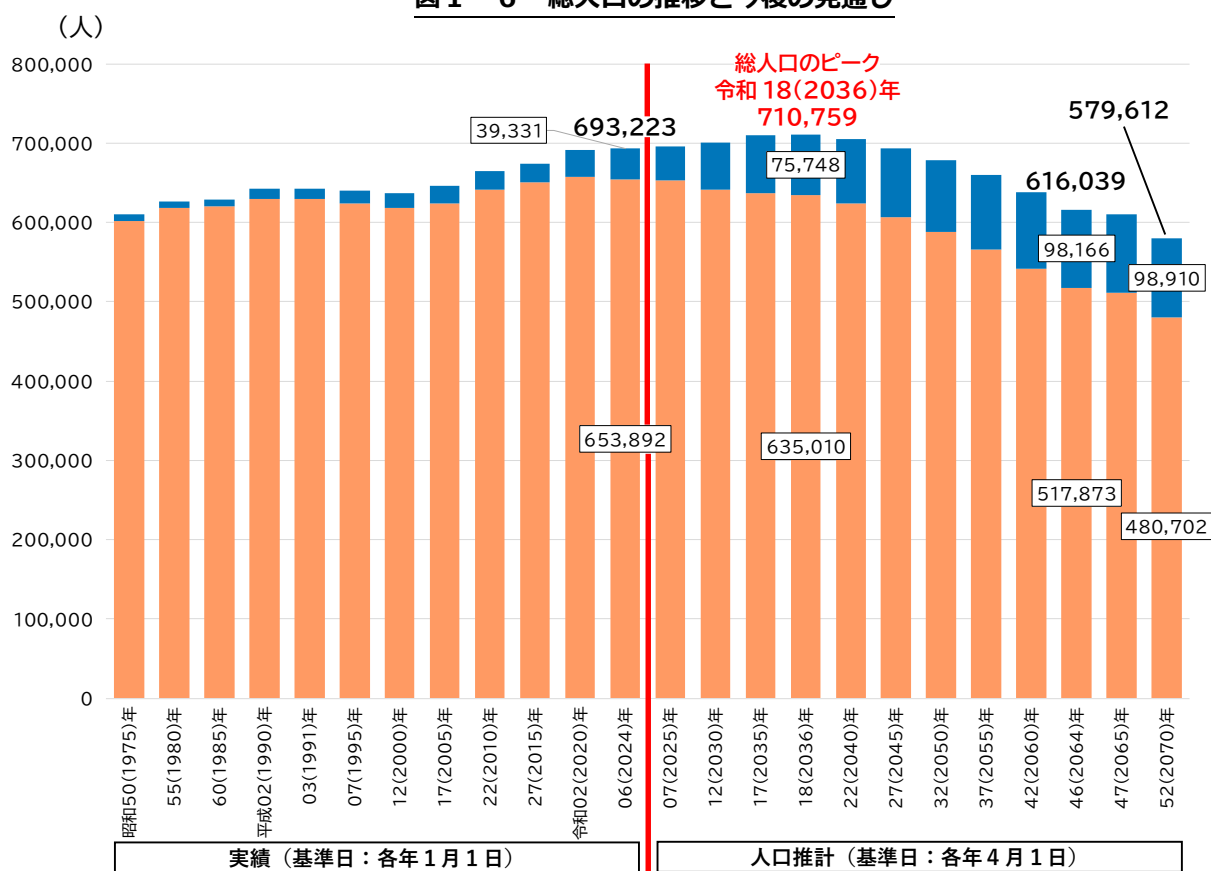
(1) 総人口の推移と今後の見通し

区の人口は増加傾向で、令和6年1月1日現在で約69万人です。

人口推計（中位推計）では、令和7年以降も微増で推移し、令和18年に約71万人とピークを迎える見込みですが、令和19年以降は減少に転じ、令和52年には現在より約11万人（16%）減少し、約58万人になると推計しています。

また、日本人人口は令和52年には約48万人と、現在より約17万人（26%）の減少を見込む一方、外国人人口は令和52年には約10万人と、現在より約6万人（151%）増加する見込みです。

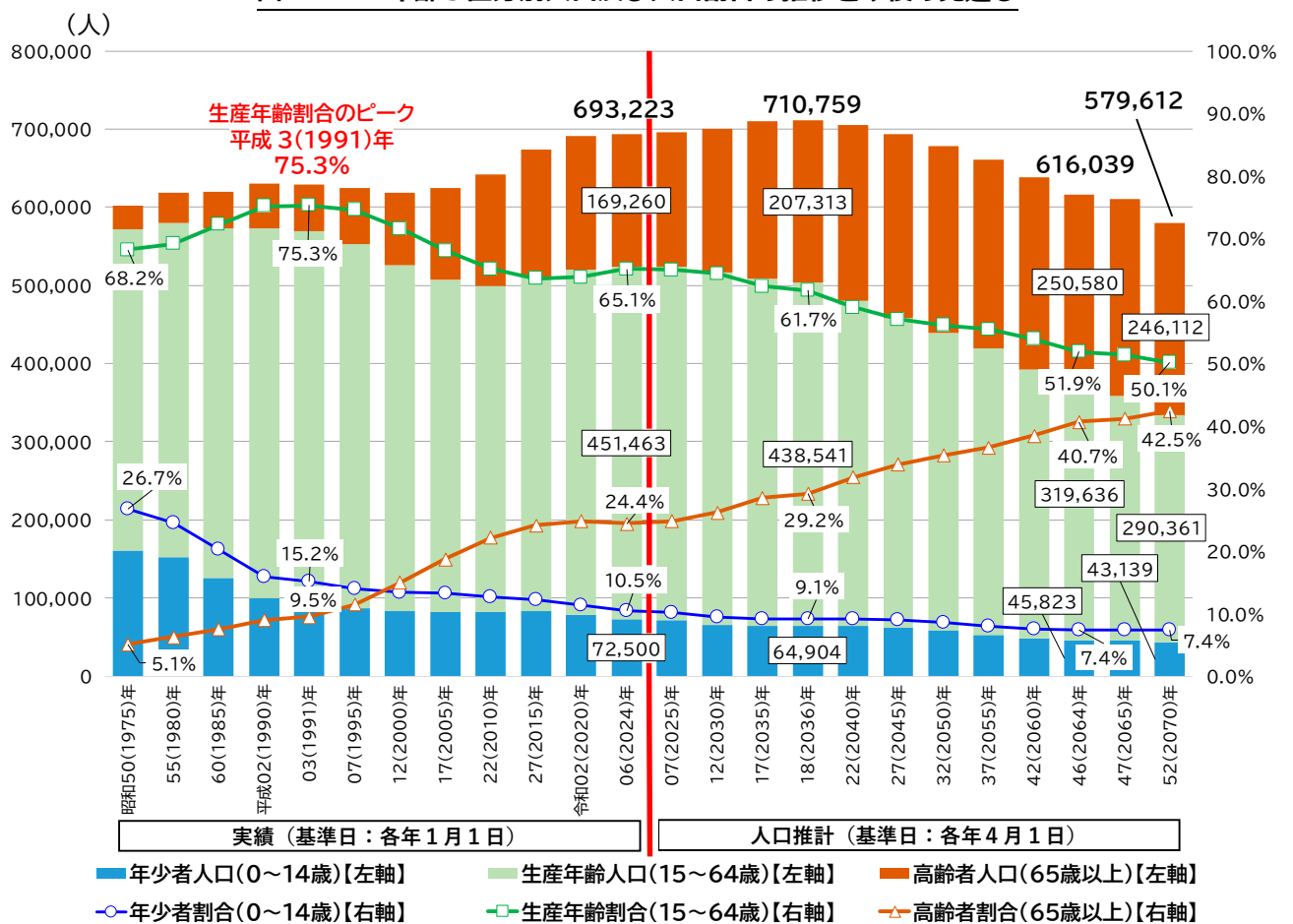
図1-6 総人口の推移と今後の見通し



■ 日本人人口 ■ 外国人人口 出典：足立区「足立区人口推計（令和6年2月）」
 足立区「数字で見る足立（経年表）」
 足立区「足立区の世帯と人口（令和6年1月）」
 により作成

- (2) 年齢3区分（年少者・生産年齢・高齢者）別人口及び人口割合の推移と今後の見通し
- 年齢3区分別に見ると、生産年齢（15～64歳）割合、年少者（0～14歳）割合とも将来的に減少傾向となる一方、高齢者（65歳以上）割合は大きく増加する見込みとなっており、少子高齢化がさらに進行していくと予測しています。

図1-7 年齢3区分別人口及び人口割合の推移と今後の見通し



出典：足立区「足立区人口推計（令和6年2月）」
 足立区「数字で見る足立（経年表）」
 足立区「足立区の世帯と人口（令和6年1月）」
 により作成

2 足立区の財政状況

(1) 普通会計¹²決算額の推移

ア 歳入¹³決算額の推移

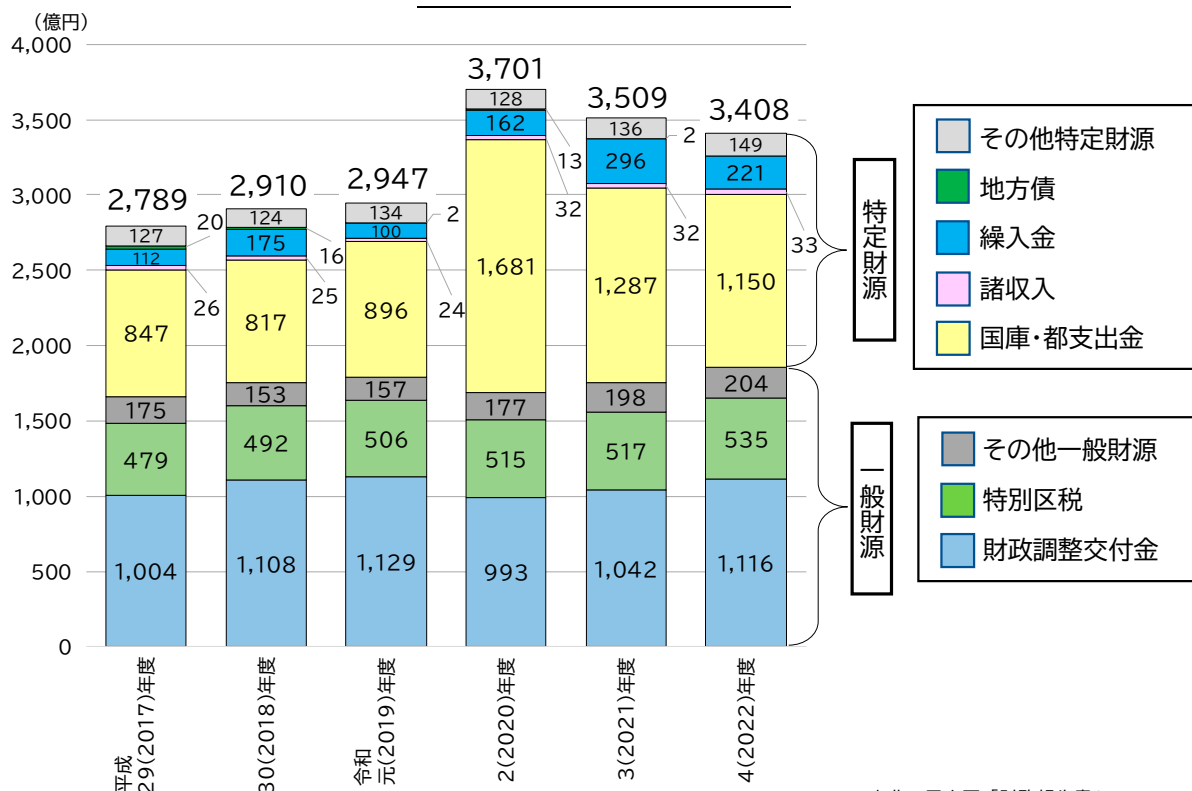
歳入は、平成29年度に2,789億円、平成30年度以降も増加傾向で、特に令和2年度は、コロナ禍で国が実施した「特別定額給付金¹⁴」により、国庫・都支出金¹⁵が一時的に大きく増額となったことで、3,701億円となりました。

令和3年度は、令和2年度に限定された「特別定額給付金」の減により、大きく減少しましたが、令和4年度は3,408億円と高止まりしています。

令和4年度の内訳を見ると、特別区税¹⁶と財政調整交付金¹⁷の合計が1,651億円と、歳入全体の約5割を占めている状況です。

将来的な生産年齢人口の減に伴う特別区税の減少や、景気動向に左右される財政調整交付金の減少の可能性などを考慮すると、今後は大きな減収も覚悟せざるを得ません。

図1-8 歳入決算額の推移



出典：足立区「財務報告書」

足立区「普通会計決算のあらまし」
により作成

12 普通会計 : 全国の地方公共団体の財務状況比較のため、国の定める基準で各地方公共団体の会計を統一的に再構築したもの。
 13 歳入 : 区の事業を進めるための1年間の収入。
 14 特別定額給付金 : 国による新型コロナウイルス感染症の緊急経済対策として実施された、区民一人あたり10万円の現金給付。
 15 国庫・都支出金 : 使い方が特定され、特定の経費にのみ使用できる国や都から交付されるお金。
 16 特別区税 : 区が行政の執行に必要な一般経費を賄うために区民等から徴収する税。
 17 財政調整交付金 : 特別区の行政サービス水準を同程度に保つために東京都から交付されるお金。

イ 歳出¹⁸決算額の推移

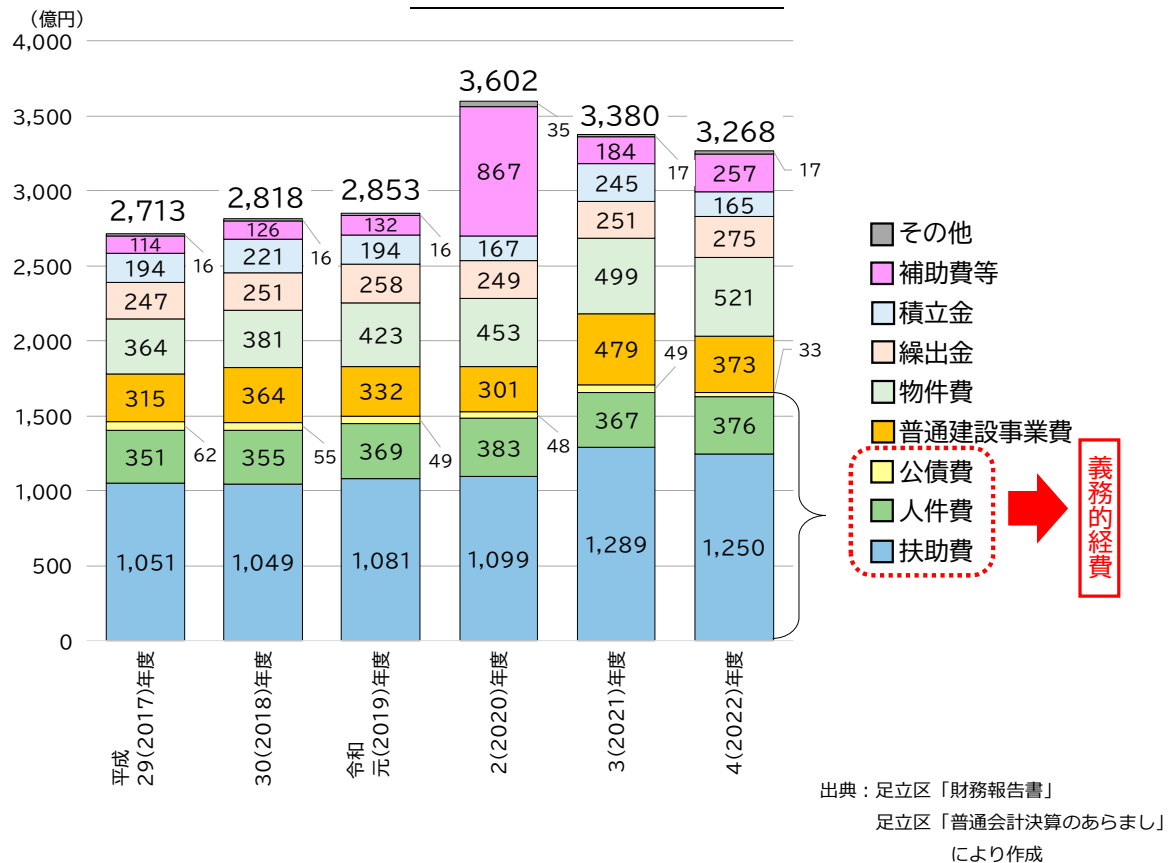
歳出は、平成29年度に2,713億円、平成30年度以降も増加傾向で、特に令和2年度はコロナ禍で国が実施した「特別定額給付金」により、補助費等が一時的に大きく増額となったことで、3,602億円となりました。

令和3年度は、令和2年度に限定された「特別定額給付金」の減により、大きく減少しましたが、令和4年度は3,268億円と高止まりしています。

令和4年度の内訳を見ると、扶助費¹⁹が1,250億円と、歳出全体の約4割を占めている状況です。

高齢化がさらに進行していくことを考慮すると、今後の福祉・医療・介護などの需要の増加に伴う扶助費の増加を避けて通ることはできません。

図1-9 歳出決算額の推移



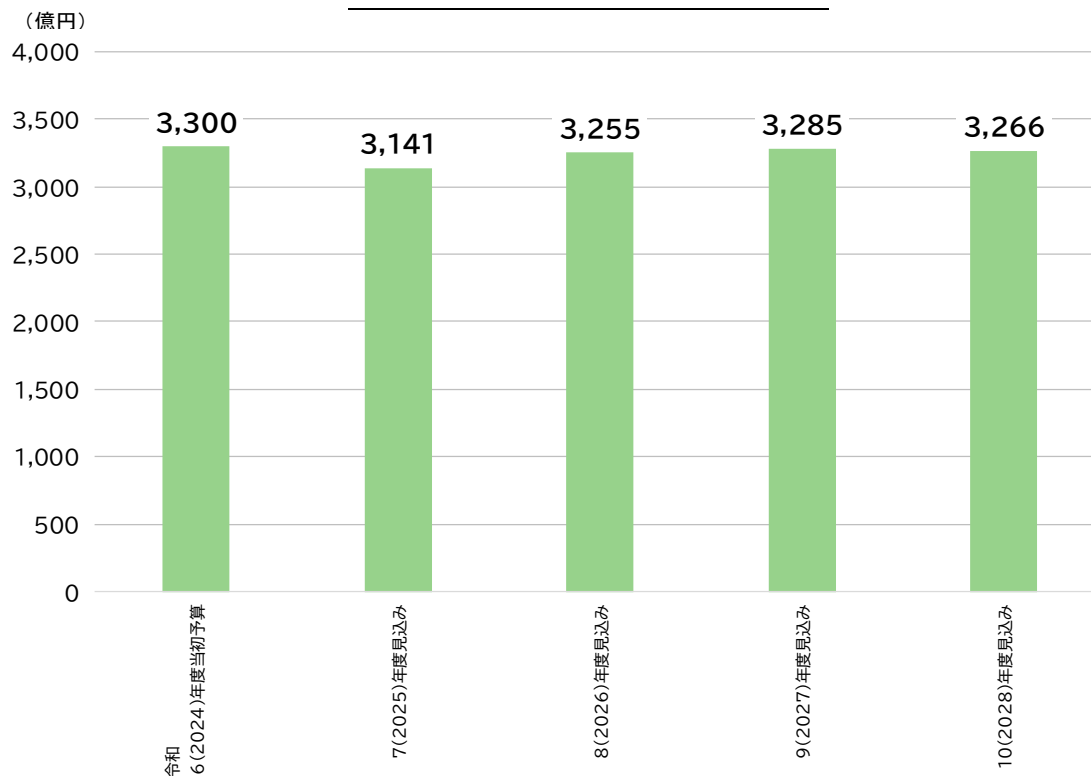
18 歳出：区の事業を進めるための1年間の支出。

19 扶助費：社会保障の一環として、高齢者、児童、心身障がい者等に対して行う様々な扶助（援助）に要する経費。

(2)「足立区中期財政計画²⁰」における予算規模の見通し

令和5年2月に策定した「足立区中期財政計画」では、下図のとおり、令和6年度から10年度までの予算規模の見通し（令和6年度は当初予算額に置き換え）が示されています。

図1－10 今後の予算規模の見通し



出典：足立区「足立区中期財政計画（令和5年2月）」
により作成

20 足立区中期財政計画：基本計画に定める施策を着実に展開するため、令和5年度から10年度までの6年間の歳入と歳出の見込み額を推計し、財源の裏付けとなる財政フレームを示すもの。

3 公共施設の保有状況

(1) 施設保有面積の推移

～数値上は横ばいで推移するも、今後は学校の建替えにより増加の可能性～

区が所有または借用している公共施設の延べ床面積は、平成29年4月の総合管理計画策定時の約121.2万㎡から令和4年度末時点で約121.1万㎡と、数値上は横ばいで推移しています。

これは、小・中学校の建替えに伴う面積の増が、施設の廃止による面積の減で相殺されたためです。

ただし、現在、学校の面積は建替え時に増加する場合が多く、今後老朽化した学校が順次建替えとなることで、施設保有面積はさらに増加していく可能性があります。

表1-3 建物数・施設保有面積の推移

		総合管理計画策定時		令和4年度末時点		
		建物数	面積(万㎡)	建物数	面積(万㎡)	
所有施設	学校	—	71.2	107	74.0	+2.8
	学校以外	—	47.3	535	44.0	△3.3
借用施設		—	2.7	50	3.1	+0.4
合 計		—	121.2	692	121.1	△0.1

※1 総合管理計画策定時は、建物数を掲載していなかったため「—」とする。

出典：足立区「令和4年度末固定資産台帳」により作成

※2 令和4年度末時点は、固定資産台帳（令和4年度末）を基に建物数を算出（複数の棟がある施設は、1つの建物としてカウント）。

※3 建物数及び面積には、解体前の施設を含む。

(2) 規模が大きい施設

～規模が大きい10施設中、6施設が学校～

区が所有または借用している公共施設の中で、特に規模が大きい施設を10施設ピックアップしました。そのうち6施設が学校です。

表1-4 規模が大きい10施設

	施設名（主な施設名称）	面積		施設名（主な施設名称）	面積
1	足立区役所本庁舎 (北館・中央館・南館)	75,552㎡	6	鹿浜菜の花中学校	12,285㎡
2	生涯学習総合施設 (生涯学習センター、中央図書館など)	17,681㎡	7	千寿小学校	11,425㎡
3	ギャラクシティ 〔こども未来創造館〕 〔西新井文化ホール〕	15,220㎡	8	新田小学校 (新田小中一貫校第二校舎)	11,247㎡
4	綾瀬小学校	13,638㎡	9	総合スポーツセンター	10,446㎡
5	新田中学校 (新田小中一貫校第一校舎)	13,072㎡	10	江北桜中学校	10,302㎡

出典：足立区「令和4年度末固定資産台帳」により作成

(3) 公共施設の老朽化状況

～築60年以上の公共施設が出現～

区が所有している公共施設の建築年度別整備状況を見ると、令和4年度末時点では、築60年以上の公共施設が約7.7万㎡（11施設）出現しており、その全てが学校です（解体前の学校1校を含む）。

図1-11 建築年度別整備状況

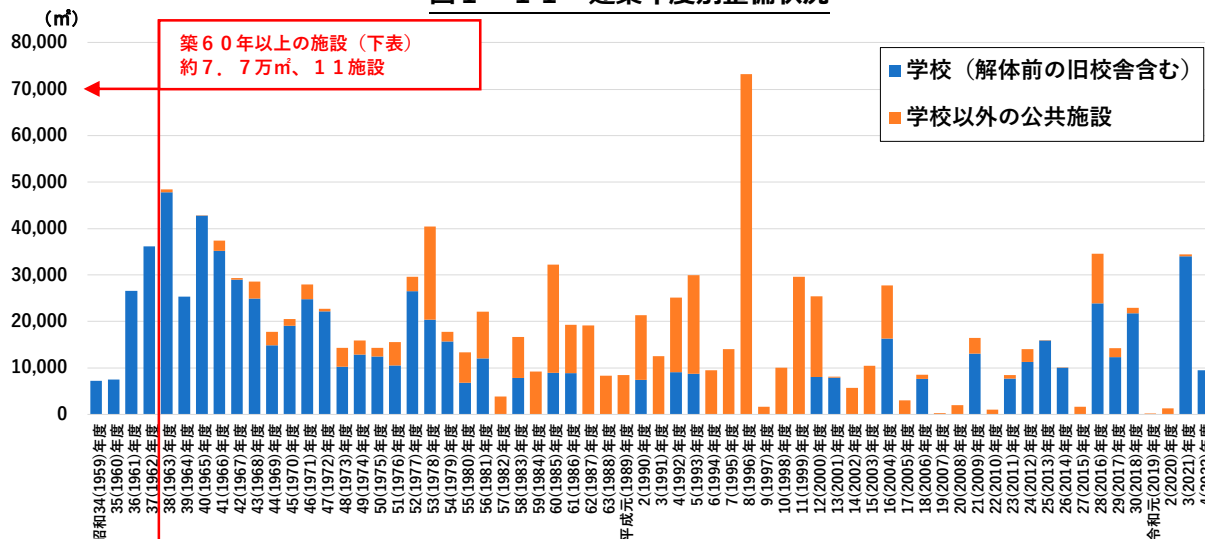


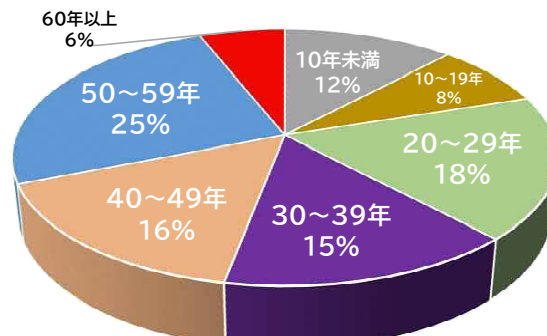
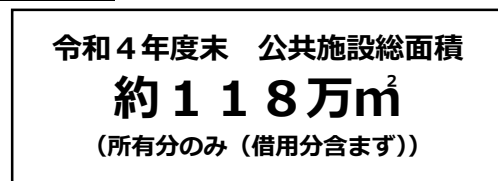
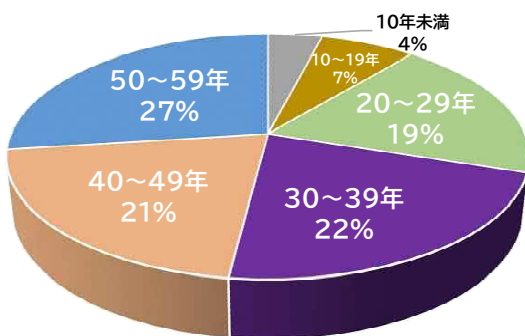
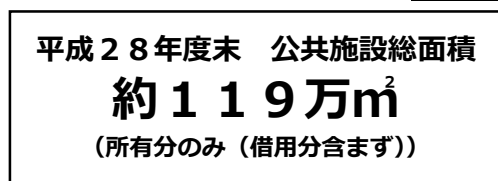
表1-5 築60年以上の公共施設（築年数が古い順）

公共施設名	築年数	面積	公共施設名	築年数	面積
1 東島根中学校	63年	7,189㎡	7 千寿常東小学校	60年	6,657㎡
2 第十二中学校	62年	7,451㎡	8 第十中学校	60年	8,154㎡
3 興本小学校	61年	5,864㎡	9 東洲江小学校	60年	6,482㎡
4 第九中学校	61年	7,257㎡	10 洲江中学校	60年	8,782㎡
5 第四中学校	61年	7,604㎡	11 (旧) 高野小学校 (※)	60年	6,046㎡
6 中川小学校	61年	5,875㎡	面積計		77,361㎡

※解体前の旧校舎

出典：足立区「令和4年度末固定資産台帳」により作成

図1-12 築年数別面積割合



出典：足立区「令和4年度末固定資産台帳」により作成

(4) 有形固定資産減価償却率の推移

～償却率は大幅に増加し、特別区の比較でも施設の老朽化が顕著～

有形固定資産減価償却率は、公共施設や道路などの有形固定資産（土地や工事中の建物等を除く）が、耐用年数²¹に対してどの程度経過しているかを示しており、この数値が大きくなるほど、施設等の老朽化が進んでいることを意味します。

足立区の有形固定資産減価償却率は、平成28年度末時点の58.0%から8.0ポイント増加し、令和4年度末時点では66.0%となっています。

表1-6 有形固定資産減価償却率の推移

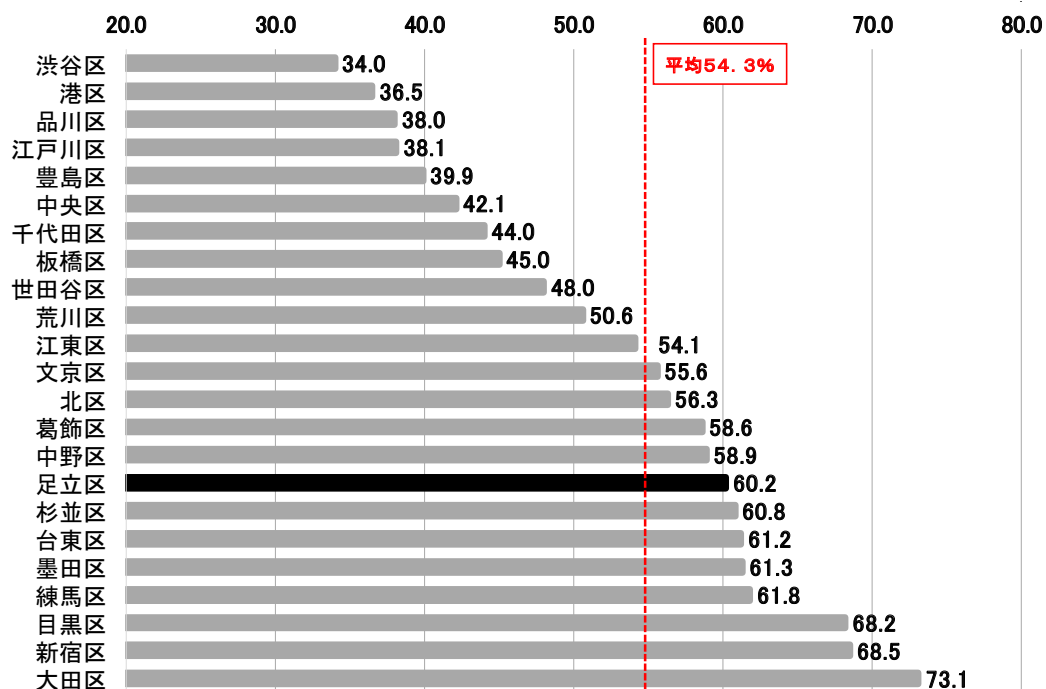
	平成28年度末(A)	令和4年度末(B)	増減(C)=(B-A)
有形固定資産減価償却率	58.0%	66.0%	+8.0ポイント

出典：足立区「平成28年度、令和4年度統一的な
基準による決算財務書類」により作成

特別区の間で比較ができる令和3年度末時点の足立区の有形固定資産減価償却率は60.2%と、8番目に高くなっています。

このことから、公共施設等の老朽化が進んでいることが分かり、今後、維持更新のために多額の財政支出が見込まれます。

図1-13 特別区の有形固定資産減価償却率（令和3年度末）



出典：総務省「統一的な基準による財務書類に関する情報
(各種指標)」により作成

【参考】有形固定資産減価償却率の計算式

$$\text{有形固定資産の減価償却累計額} \div \text{取得価額} \times 100 (\%)$$

21 耐用年数：建物の用途や構造により異なる。一例として、用途「庁舎」の場合、木造24年、鉄骨造38年、鉄筋コンクリート造50年等（出典：財務省令「減価償却資産の耐用年数等に関する省令」（昭和40年大蔵省令第15号））。

4 インフラ施設の保有状況

(1) 道路等

道路の総延長は、平成29年4月の総合管理計画策定時の約95.0万mから、令和5年4月時点で約97.5万mと、約2.5万m増加しました。

その中でも、特に一般道路（生活道路）の増加が約2.2万mと最も大きく、主な増加要因は、土地区画整理事業によるものです。

表1-7 道路総延長・面積の推移

種 別	総合管理計画策定時		令和5年4月時点	
	総延長(m)	面積(m ²)	総延長(m)	面積(m ²)
幹線道路	72,464	1,088,288	73,887	1,125,485
一般道路（生活道路）	873,129	6,144,018	894,678	6,369,436
自転車歩行者道路	4,757	34,114	6,083	42,358
合 計	950,350	7,266,420	974,648	7,537,279

出典：足立区「数字で見る足立（令和5年版）」
足立区「道路現況調査」
により作成

(2) 橋りょう²²

橋りょうは、平成29年4月の総合管理計画策定時の83橋から、令和5年4月時点で66橋と、17橋（約113m）減少しました。

これは、管理区分等の変更に伴い、橋りょうの対象数を見直したことが主な要因で、減少した17橋のうち、9橋は撤去等、8橋は道路として管理しています。

表1-8 管理区分等が変更となった橋りょう

	水路調査による管理区分 の見直し	古隅田川水路の改修工事 完了による	長寿命化修繕計画の 対象橋りょう整理による
追加 (2橋)	該当なし	該当なし	①やっちゃん人道橋 ②花瀬橋
削除 (19橋)	①中の橋 ⑥大鳥橋 ②杏葉橋 ⑦金橋 ③諏訪橋 ⑧小宮木橋 ④後橋 ⑤佐野橋	①千鳥橋 ⑥境田橋 ②北野橋 ③袋橋 ④常磐橋 ⑤富士見橋	①竹ノ塚駅構内歩道橋 ②竹ノ塚跨線人道橋 ③さくら橋 ④舎人橋 ⑤砂子橋

表1-9 橋りょう数・面積の推移

種 別	総合管理計画策定時			令和5年4月時点		
	数	総延長(m)	面積(m ²)	数	総延長(m)	面積(m ²)
橋りょう	83	1,751	18,854	66	1,638	18,623
合 計	83	1,751	18,854	66	1,638	18,623

出典：足立区「数字で見る足立（令和5年版）」
足立区「道路整備課資料」
により作成

22 橋りょう：道路、河川、鉄道などを横断するため、その上方につくられる構造物のこと。橋と同じ意味。

(3) 公園

ア 公園面積

区立公園²³の面積は、平成29年4月の総合管理計画策定時の約220万㎡から、令和5年4月時点で約224万㎡と、約4万㎡増加しました。

一方、児童遊園²⁴やプチテラス²⁵といった小規模公園は、まちづくり事業に合わせた拡充・統合や公共施設等との一体化を進めたことで、児童遊園の面積は減少、プチテラスの面積はほぼ横ばいで推移しています。

表1-10 公園数・面積の推移

種 別	総合管理計画策定時		令和5年4月時点	
	数	面積 (㎡)	数	面積 (㎡)
区立公園	335	2,202,801	350	2,245,166
児童遊園	156	93,329	147	88,773
プチテラス	98	11,519	100	11,738
合 計	589	2,307,649	597	2,345,677

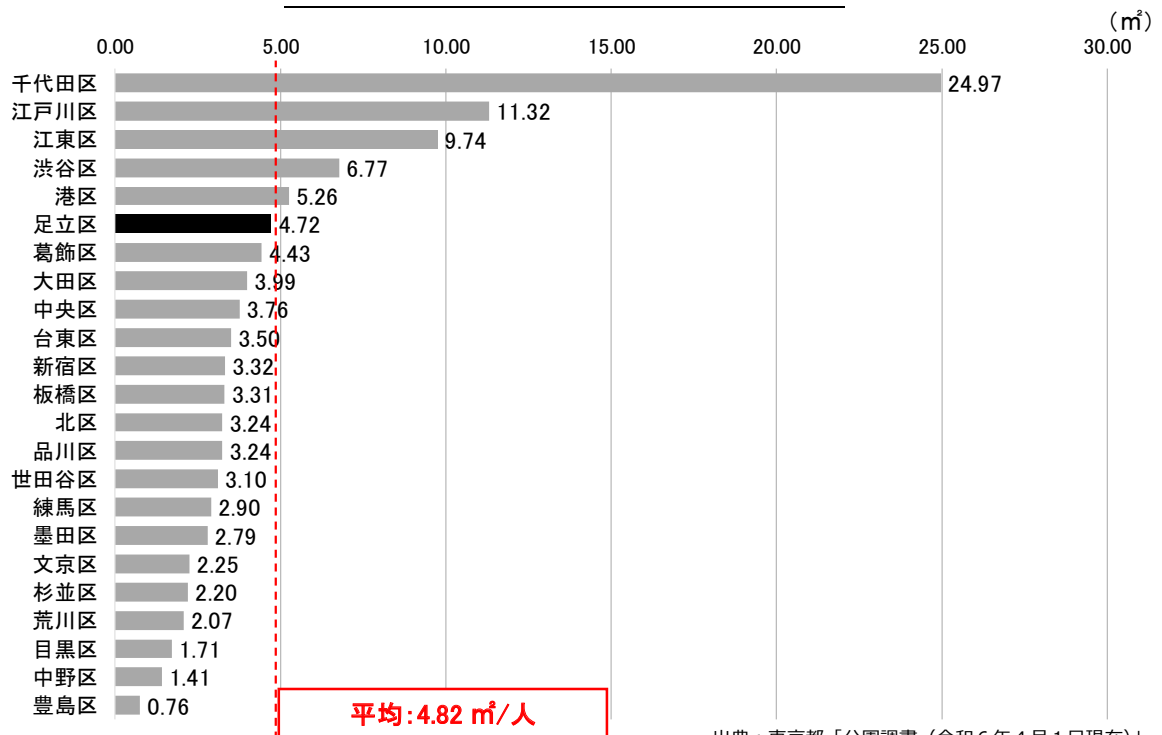
出典：足立区「数字で見る足立（令和5年版）」
により作成

イ 区民1人あたり公園面積

区民1人あたり公園（都市公園²⁶）面積は、令和6年4月時点で4.72㎡となっています。

特別区内での区民1人あたり公園面積では、皇居外苑（国民公園）がある千代田区や、葛西海浜公園（海上公園）がある江戸川区が上位となっており、足立区は6番目です。

図1-14 特別区の区民1人あたり公園面積



出典：東京都「公園調書（令和6年4月1日現在）」
により作成

23 区立公園：都市環境の改善、防災性の向上、都市景観の形成など多様な機能を有する1,000㎡以上の公園。

24 児童遊園：幼児、小学校低学年、高齢者の静的活動中心の利用者を対象とした小規模（原則1,000㎡未満）の公園。

25 プチテラス：まちの緑化推進、良好な都市形成及び安全性の向上を図るために設置される小規模（原則300㎡未満）の広場。

26 都市公園：基幹公園（都立公園、区立公園）及び都市緑地（荒川河川敷緑地、葛西用水親水水路等）等の公園。

5 公共施設の維持管理に要した経費

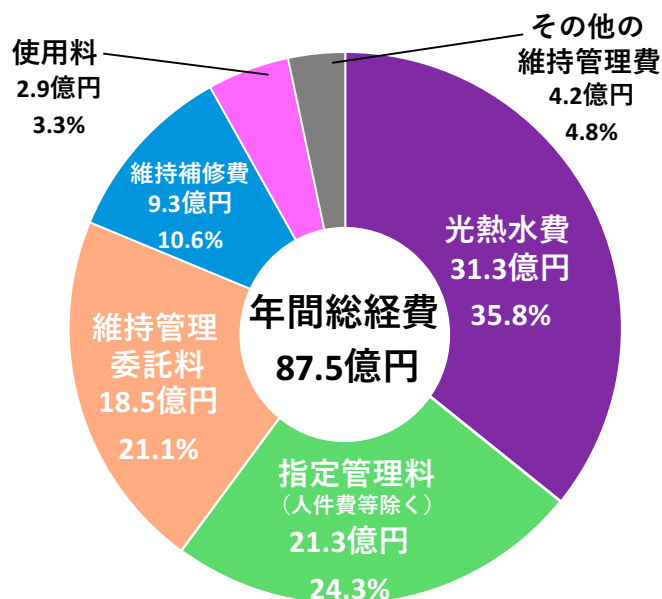
～公共施設にかかる1年間の維持管理費は、約87.5億円～

公共施設にかかった1年間の維持管理費は、約87.5億円でした。

光熱水費などの高騰により、維持管理費は今後さらに増えることが予想されるため、指定管理料や維持管理委託料などのコスト削減について研究していく必要があります。

(1) 維持管理費の内訳

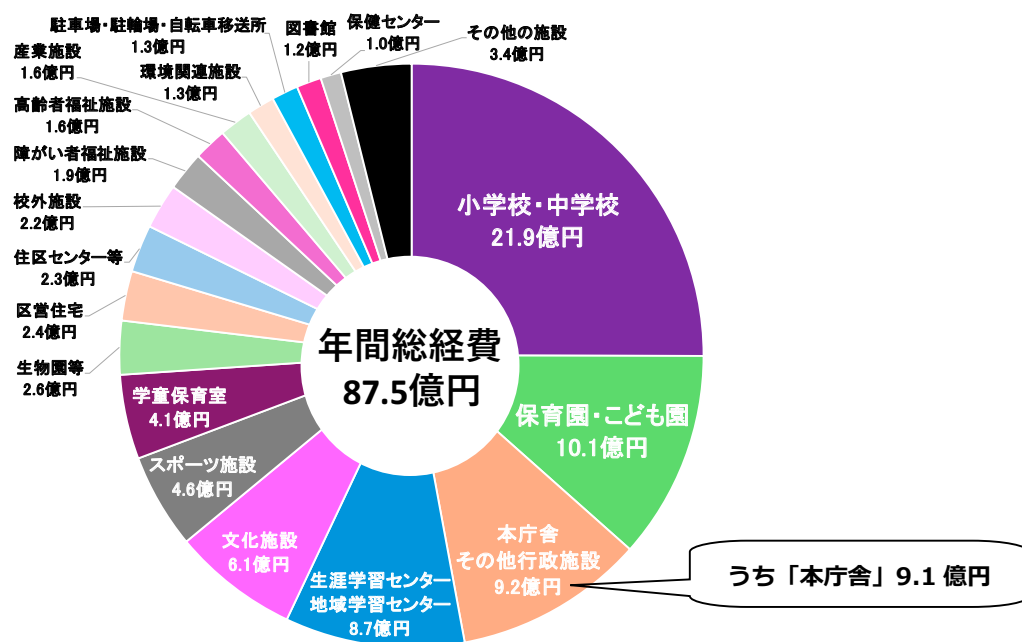
図1-15 公共施設の維持管理に要した経費（令和4年度決算）



出典：足立区「公共施設マネジメント担当課資料」
により作成

(2) 施設類型別の内訳

図1-16 公共施設の維持管理に要した経費（施設類型別・令和4年度決算）



出典：足立区「公共施設マネジメント担当課資料」
により作成

公園の「役割」と「機能」

区では、誰もがお気に入りの公園を見つけられるように、目的に合わせて選べる公園づくりに取り組んでいます。

公園が多いという区の強みを活かし、公園を改修する際には、「役割」と「機能」、利用者の状況から公園ごとにテーマを設定し、特色を活かした魅力的な公園をつくっています。

役 割	機 能
(1) にぎわいの公園 にぎやかに過ごすための公園	役割を具体化する公園の8つの特色 ① 児童の遊び ⑤ 花
(2) やすらぎの公園 静かに過ごすための公園	② 健康づくり ⑥ その他（防災・歴史等） ③ 集い・広場 ⑦ 休憩・憩い ④ 幼児の遊び ⑧ 樹木・自然・散策

【にぎわいの公園の例】
竹の塚第八公園



化石のレリーフ

近くに小学校があるため、「理科」をテーマとし、砂場に発掘できる化石のレリーフを設置しました。

【やすらぎの公園の例】
青和憩いの森公園



桜を眺めるベンチを設置し、散策路付近にヒガンバナを植栽しました。